

「オスプレイを東京・横田基地に配備させない 11・23 大集会」

～名護市長メッセージ～

この度は、「オスプレイを東京・横田基地に配備させない 11・23 大集会」の開催にあたり、ご参集されました多くの皆様に、ご挨拶を申し上げます。

オスプレイにつきましては、沖縄県宜野湾市の普天間飛行場に 2012 年 10 月に 12 機、13 年 9 月には 12 機が追加配備され、現在 24 機が運用されております。皆様もご承知のとおり、オスプレイは普天間飛行場周辺地域のみならず、私の住む名護市でも騒音被害を発生させております。

名護市には、横田基地の約 2.8 倍の面積を有するキャンプ・シュワブ演習場があり、市の全体面積の 10%程度を占有しております。米軍はそこで日夜、オスプレイやヘリによる離着陸訓練を実施しており、周辺住民の生活環境を著しく悪化させております。ましてや、現状に加えて辺野古新基地が建設されてしまうと、その被害が拡大するのは火を見るより明らかであり、私たちの想像を絶します。そもそも、オスプレイやヘリなどの離着陸訓練の騒音だけが基地被害ではありません。キャンプ・シュワブ演習場では実弾射撃演習も日夜実施されており、その砲撃音や振動が 6.5 km 離れた市役所まで伝わってきます。米軍人等が起こす事件・事故の被害も決して無視できるものではありません。名護市ではこんな状態がキャンプ・シュワブ演習場の建設以降、60 年間ずっと続いているのです。

私たち名護市民、沖縄県民は、理不尽で残酷な基地被害を誰よりも理解しております。私たちの抱える苦悩や悲しみを県外の多くの方々と共有し、基地被害が無くなる、そんな普通であたりまえの日が来ることを切に願っております。

結びに、貴実行委員会をはじめ「オスプレイを東京・横田基地に配備させない 11・23 大集会」にご参集されました多くの皆様のご活躍とご健勝を心より祈願申し上げ、私からのメッセージとさせていただきます。

共にがんばりましょう。

平成 28 年 11 月吉日

名護市長 稲嶺 進